



# Sun SPARC Enterprise™ M4000/M5000 サーバ プロダクトノート

---

XCP 1091 版

Sun Microsystems, Inc.  
[www.sun.com](http://www.sun.com)

Part No. 821-1233-10  
2009 年 11 月, Revision A

コメントの送付: <http://docs.sun.com> (Feedback[+] リンクをクリック)

Copyright 2009 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. および富士通株式会社 〒 211-8588 神奈川県川崎市中原区上小田中 4-1-1, Japan. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社は、それぞれ本書に記述されている製品および技術に関する知的所有権を所有または管理しています。これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許権などの知的所有権に関する法律および国際条約により保護されています。これらの製品、技術、および本書に対して Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社が有する知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品および技術は、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。富士通株式会社と Sun Microsystems, Inc. およびそのライセンサーの書面による事前の許可なく、このような製品または技術および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の提供は、明示的であるか黙示的であるかを問わず、本製品またはそれに付随する技術に関するいかなる権利またはライセンスを付与するものでもありません。本書は、富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. の一部、あるいはそのいずれかの関連会社のいかなる種類の義務を含むものでも示すものでもありません。

本書および本書に記述されている製品および技術には、ソフトウェアおよびフォント技術を含む第三者の知的財産が含まれている場合があります。これらの知的財産は、著作権法により保護されているか、または提供者から富士通株式会社および / または Sun Microsystems, Inc. へライセンスが付与されているか、あるいはその両方です。

GPL または LGPL が適用されたソースコードの複製は、GPL または LGPL の規約に従い、該当する場合に、お客様からのお申し込みに応じて入手可能です。富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. にお問い合わせください。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに由来しています。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Java、Netra、Solaris、Sun Ray、Answerbook2、docs.sun.com、OpenBoot、および Sun Fire は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. または関連会社の商標または登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、Fujitsu Microelectronics, Inc. および富士通株式会社が SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の商標です。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、Sun Microsystems, Inc. が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。Sun Microsystems, Inc. は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・



ユーザーインターフェースの概念の研究開発における Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。Sun Microsystems, Inc. は Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装しているかまたは Sun の書面によるライセンス契約を満たす Sun Microsystems, Inc. のライセンス実施権者にも適用されます。

United States Government Rights - Commercial use. U.S. Government users are subject to the standard government user license agreements of Sun Microsystems, Inc. and Fujitsu Limited and the applicable provisions of the FAR and its supplements.

免責条項: 本書または本書に記述されている製品や技術に関して富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限ります。このような契約で明示的に規定された保証を除き、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. およびそのいずれかの関連会社は、製品、技術、または本書に関して、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。これらの製品、技術、または本書は、現状のまま提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われぬものとします。このような契約で明示的に規定されていないかぎり、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社は、いかなる法理論のもとの第三者に対しても、その収益の損失、有用性またはデータに関する損失、あるいは業務の中断について、あるいは間接的損害、特別損害、付随的損害、または結果的損害について、そのような損害の可能性が示唆されていた場合であっても、適用される法律が許容する範囲内で、いかなる責任も負いません。

本書は、「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われぬものとします。



# 目次

---

はじめに ix

**1. Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバプロダクト ノート XCP 1091 版 1**

XCP 1090 および XCP 1091 の新機能 1

Active Directory および LDAP over SSL 2

Active Directory をサポートするための XSCF の設定 3

LDAP over SSL をサポートするための XSCF の設定 4

新しい proxyuser システムアカウント 4

サポートされている最小のファームウェア、オペレーティングシステム、および  
ブラウザ 4

Solaris パッチ条件 5

Solaris 10 10/09 6

Solaris 10 5/09 6

Solaris 10 10/08 6

Solaris 10 5/08 (SPARC64 VII 2.53 GHz プロセッサを使用) 6

Solaris 10 5/08 (SPARC64 VI プロセッサと SPARC64 VII 2.4 GHz プロセ  
ッサのいずれかまたは両方を使用) 6

Solaris 10 8/07 (SPARC64 VII 2.53 GHz プロセッサを使用) のパッチ 7

Solaris 10 8/07 (SPARC64 VII 2.4 GHz プロセッサを使用) 7

Solaris 10 8/07 (SPARC64 VI プロセッサを使用) 7

Solaris 10 11/06 8

Solaris パッチの入手方法	8
Emulex PCI Express (PCIe) カードのパッチ	9
QLogic PCIe カードのパッチ	9
XCP 1090 または XCP 1091 へのアップグレード	10
XCP 1050 より前のバージョンからのアップデート	10
特定タイプの XCP アップグレード実施後に必要となるドメイン再起動	10
機能の問題と制限事項	11
SPARC64 VII プロセッサに関する制限事項	11
一般的な機能の問題と制限事項	11
追加情報および手順	13
システムへのログイン	13
WAN ブートサーバからのブート	13
Sun Java Enterprise System	14
▼ Web Console SMF サービスの有効化	14
<b>2. ハードウェアに関する情報</b>	<b>15</b>
ハードウェアに関する問題と回避方法	15
1 つの J4200 JBOD ストレージレイからの複数のシステムのブート	15
Sun Crypto Accelerator 6000 カード	16
U320 PCIe SCSI カード	16
ハードウェアドキュメントの変更予定	17
XSCF ユニットの初期化	17
<b>3. ソフトウェアに関する情報</b>	<b>19</b>
XCP に関する問題と回避方法	19
Solaris OS に関する問題と回避方法	21
サポートされているすべてのリリースの Solaris OS に関する問題	21
Solaris 10 10/09 で修正された Solaris の問題	24
Solaris 10 5/09 で修正された Solaris の問題	25

Solaris 10 10/08 で修正された Solaris の問題	25
Solaris 10 5/08 で修正された Solaris の問題	28
Solaris 10 8/07 で修正された Solaris の問題	31
ドキュメントの変更予定	34



# はじめに

---

このプロダクトノートには、Sun SPARC Enterprise™ M4000/M5000 サーバのハードウェア、ソフトウェア、ファームウェア、およびドキュメントに関する重要な最新情報が記載されています。このドキュメントは XCP 1090 リリースのプロダクトノートの更新版であり、XCP 1090 と XCP 1091 の両方のリリースを対象としています。

---

## UNIX コマンドの使用

このドキュメントでは、システムのシャットダウン、システムのブート、デバイスの設定など、UNIX® の基本的なコマンドおよび手順については説明しません。これらの情報については、次のドキュメントを参照してください。

- システム付属のソフトウェアドキュメント
- Solaris™ オペレーティングシステムのドキュメント（次のウェブサイトを参照）：

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/solaris#hic>

---

## シェルプロンプト

シェル	プロンプト
C シェル	<i>machine-name%</i>
C シェル (スーパーユーザー)	<i>machine-name#</i>
Bourne シェルおよび Korn シェル	\$
Bourne シェルおよび Korn シェル (スーパーユーザー)	#
XSCF シェル	XSCF>

---

## 関連ドキュメント

本体装置の設置、管理、および使用の手順は、Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのドキュメントセットに記載されています。各本体装置のドキュメントセットは、次のウェブサイトから入手できます。

- Sun SPARC Enterprise M4000 サーバ：  
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sparc.m4k#hic>
- Sun SPARC Enterprise M5000 サーバ：  
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sparc.m5k#hic>

---

**注** - このプロダクトノートに示す情報は、Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのドキュメントセットに記載されている情報よりも優先されます。

---

---

## ドキュメント、サポート、およびトレーニング

Sun の役割	URL
ドキュメント	<a href="http://www.sun.com/documentation/">http://www.sun.com/documentation/</a>
サポート	<a href="http://www.sun.com/support/">http://www.sun.com/support/</a>
トレーニング	<a href="http://www.sun.com/training/">http://www.sun.com/training/</a>

---

---

## サードパーティーのウェブサイト

Sun は、このドキュメントに記載されたサードパーティーのウェブサイトが利用可能かどうかについては責任を負いません。これらのサイトおよびリソースから入手できるすべての情報、広告、製品、およびその他の資料について、Sun は保証を行わず、責任および義務を負いません。これらのサイトおよびリソースから入手できるすべての情報、物品、またはサービスに関して、それらを使用または信頼した結果発生した、実際のまたは主張された損害および損失について、Sun は責任および義務を負いません。

---

## ご意見をお寄せください

Sun では、ドキュメントの品質向上のために、お客様からのコメントやご意見をお待ちしています。Sun へのコメントを送信するには、次のウェブサイトのフォームを使用してください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback/>

ご意見とともに、ドキュメントのタイトルと Part No. をお知らせください。

『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバプロダクトノート (XCP 1091 版)』、  
Part No.: 821-1233-10



# 第 1 章

---

## Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバプロダクト ノート XCP 1091 版

---

このドキュメントでは、XCP 1090 および XCP 1091 ファームウェアリリースでの変更の内容を示します。この章では、次の内容について説明します。

- 「XCP 1090 および XCP 1091 の新機能」 (P.1)
- 「サポートされている最小のファームウェア、オペレーティングシステム、およびブラウザ」 (P.4)
- 「Solaris パッチ条件」 (P.5)
- 「XCP 1090 または XCP 1091 へのアップグレード」 (P.10)
- 「機能の問題と制限事項」 (P.11)
- 「追加情報および手順」 (P.13)

---

## XCP 1090 および XCP 1091 の新機能

- XCP 1090 ファームウェアは、XSCF コマンド `showdateoffset(8)` をサポートする最初の XCP リリースです。詳細については、マニュアルページを参照してください。
- XCP 1090 ファームウェアは、SPARC64 VII 2.53 GHz プロセッサをサポートする最初の XCP リリースです。これより前の XCP ファームウェアリリースは、高速化されたバージョンであるこのプロセッサをサポートしていません。このプロセッサは、速度以外のあらゆる面において、機能上すべての SPARC64 VII プロセッサと同一です。「サポートされている最小のファームウェア、オペレーティングシステム、およびブラウザ」 (P.4) を参照してください。

- XCP 1091 ファームウェアでは、Active Directory 機能および LDAP over SSL 機能が実装されます。「[Active Directory および LDAP over SSL](#)」(P.2) を参照してください。

## Active Directory および LDAP over SSL

XCP 1091 リリースでは、Active Directory 機能および LDAP over SSL 機能のサポートが実装されます。

- Active Directory は、Microsoft™ Corporation が提供する分散型のディレクトリサービスです。LDAP ディレクトリサービスと同様に、ユーザーの認証に使用されます。
- LDAP over SSL では、Secure Sockets Layer (SSL) 技術によって LDAP ユーザーのセキュリティが強化されます。ユーザーの認証には LDAP ディレクトリサービスを使用します。

Active Directory と LDAP over SSL のいずれも、ユーザーの資格情報を認証する機能とともに、ネットワーク接続されたリソースに対するユーザーのアクセスレベルを認可する機能を提供します。システムリソースにユーザーがアクセスする前に、認証を使用してユーザーの ID を確認し、ユーザーに特定のアクセス権限を付与することによって、ネットワーク接続されたリソースに対するユーザーのアクセス権を制御します。

ユーザーの権限は、XSCF 上で設定されるか、ネットワークドメイン内の各ユーザーのグループメンバーシップに基づいてサーバから取得されます。ユーザーは、複数のグループに所属できます。Active Directory または LDAP over SSL では、ユーザードメインの設定順序に従ってユーザーを認証します（ユーザードメインとは、ユーザーの認証に使用される認証ドメインです）。

認証が完了した後は、ユーザーの権限を次の方法で決定できます。

- 最も単純な場合は、XSCF での Active Directory または LDAP over SSL の設定を通じて、ユーザーの権限を直接決定できます。Active Directory および LDAP over SSL には、いずれも `defaultrole` パラメータが存在します。このパラメータが設定されている場合、Active Directory または LDAP over SSL を通じて認証されるすべてのユーザーに対して、このパラメータで設定されている権限が割り当てられます。Active Directory または LDAP over SSL サーバでユーザーを設定するときに必要なのは、パスワードのみであり、グループメンバーシップは関係しません。
- `defaultrole` パラメータが設定されていない場合、ユーザーの権限は、ユーザーのグループメンバーシップに基づいて Active Directory または LDAP over SSL サーバから取得されます。XSCF 上で、Active Directory または LDAP over SSL サーバにある対応するグループ名を使用して `group` パラメータを設定する必要があります。各グループには、XSCF 上で設定されている権限が関連付けられます。ユーザーが認証されると、ユーザーのグループメンバーシップを使用してユーザーの権限が決定されます。

設定できるグループには、**administrator**、**operator**、および **custom** という 3 つのタイプがあります。**administrator** グループまたは **operator** グループを設定する場合、必要となるのはグループ名のみです。

**administrator** グループには、**platadm**、**useradm**、および **auditadm** 権限が関連付けられます。**operator** グループには、**platop** および **auditop** 権限が関連付けられます。**custom** グループを設定するには、グループ名と権限の両方が必要です。グループのタイプごとに、グループを 5 つまで設定できます。複数のグループに割り当てられたユーザーが受け取る権限は、それらのグループに関連付けられているすべての権限を合計したものになります。

これらの新しい機能をサポートするため、XSCF Web の Settings メニューに、2 つの新しい設定画面 (Active Directory および LDAP over SSL) が追加されました。リモートユーザーは、Active Directory または LDAP over SSL のいずれかで認証されると、XSCF Web にログインして XSCF Web を使用できます。

## Active Directory をサポートするための XSCF の設定

**setad(8)** コマンドおよび **showad(8)** コマンドを使用して、Active Directory の設定をコマンドラインから設定および表示できます。

デフォルトでは、Active Directory のサポートは無効になっています。Active Directory のサポートを有効にするには、次のコマンドを使用します。

```
XSCF> setad enable
```

Active Directory のサポートを無効にするには、次のコマンドを使用します。

```
XSCF> setad disable
```

Active Directory のサポートが有効または無効のいずれになっているかを表示するには、次のコマンドを入力します。

```
XSCF> showad
```

**setad** コマンドをさまざまなパラメータとともに使用して、Active Directory を設定します。たとえば、このコマンドを使用して、1 つのプライマリ Active Directory サーバと 5 つの代替 Active Directory サーバを設定する、グループ名と権限を割り当てる、特定のユーザードメインを設定する、診断メッセージのロギングを制御することなどができます。ユーザードメインは、XSCF 上で **setad userdomain** コマンドを使用して明示的に設定することも、ログインプロンプトに **user@domain** 形式で入力することもできます。

**setad(8)** および **showad(8)** のマニュアルページ、および表 3-8 にあるこれらのコマンドの注記を参照してください。

---

**注** - Active Directory を設定および使用した後は、ファームウェアをダウングレードしないでください。ただし、XCP 1090 以前のリリースにダウングレードする必要がある場合は、ダウングレードの直後に `restoredefaults -c xscfu` コマンドを実行します。

---

## LDAP over SSL をサポートするための XSCF の設定

`setldapssl(8)` コマンドおよび `showldapssl(8)` コマンドを使用して、LDAP over SSL の設定をコマンドラインから設定および表示できます。これらのコマンドは、`setad(8)` コマンドおよび `showad(8)` コマンドで Active Directory を対象として実行する内容を LDAP over SSL に実行するものであり、同一のパラメータを数多くサポートしています。

詳細については、`setldapssl(8)` および `showldapssl(8)` のマニュアルページを参照してください。

## 新しい proxyuser システムアカウント

Active Directory および LDAP over SSL をサポートするために、このリリースでは `proxyuser` という新しいシステムアカウントを導入しています。この名前を持つユーザーアカウントが存在していないことを確認してください。存在している場合は、`deleteuser(8)` コマンドを使用して削除してから、XSCF をリセットした後、Active Directory 機能または LDAP over SSL 機能を使用します。

---

## サポートされている最小のファームウェア、オペレーティングシステム、およびブラウザ

新しい Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバには、Solaris™ Operating System および Sun Java™ Enterprise System ソフトウェアがプレインストールされています。

表 1-1 に、SPARC64™ VI プロセッサおよび SPARC64 VII プロセッサがサポートされているファームウェアおよびオペレーティングシステム (OS) の最初のバージョンを示します。

表 1-1 サポートされている最小のファームウェアおよびオペレーティングシステムのバージョン

プロセッサのタイプ	XCP の最小バージョン	オペレーティングシステムの最小バージョン
SPARC64 VI プロセッサ	XCP 1040	Solaris 10 11/06 (必須パッチ適用済み)*
SPARC64 VII プロセッサ 2.4 GHz	XCP 1070	Solaris 10 8/07 (必須パッチ適用済み)*
SPARC64 VII プロセッサ 2.53 GHz	XCP 1090	Solaris 10 8/07 (Solaris 10 10/09 パッチバンドルおよび Sun Alert パッチクラスタ適用済み)

\* 「Solaris パッチ条件」(P.5) を参照してください。  
最新パッチリビジョンがあるかどうか、<http://sunsolve.sun.com> を確認してください。

XSCF Web は、多くのウェブブラウザでサポートされます。このうち、XSCF Web の動作することが確認されているウェブブラウザは、表 1-2 のとおりです。

表 1-2 確認されたウェブブラウザのバージョン

ウェブブラウザ	バージョン
Firefox	2.0 および 3.0
Microsoft Internet Explorer	6.0 および 7.0

## Solaris パッチ条件

この項では、M4000/M5000 サーバで必須となるパッチ、パッチバンドル、および Sun Alert パッチクラスタを示します。

パッチ要件および特別なインストール手順については、必ずパッチの README を参照してください。

この項に示すパッチ ID は、インストールが必要なパッチの最小レベルを表しています。2 桁のサフィックスは、パッチの最小リビジョンレベルを表しています。

最新パッチリビジョンがあるかどうか、<http://sunsolve.sun.com> を確認してください。パッチは、記載されている順序で適用します。

その他の Solaris OS の情報については、「[Solaris OS に関する問題と回避方法 \(P.21\)](#)」を参照してください。

## Solaris 10 10/09

なし。ただし、ドメインで Solaris 10 10/09 OS および IPMP を実行している場合は、プローブベースの障害検出を無効にして、CR 6888928 を修正する必要があります。InfoDoc 211105 (86869) を参照してください。

## Solaris 10 5/09

なし。

## Solaris 10 10/08

なし。

## Solaris 10 5/08 (SPARC64 VII 2.53 GHz プロセッサを使用)

Solaris 10 10/09 パッチバンドルおよび Sun Alert パッチクラスタ。次のウェブサイト参照してください。

<http://sunsolve.sun.com/show.do?target=patches/patch-access>

## Solaris 10 5/08 (SPARC64 VI プロセッサと SPARC64 VII 2.4 GHz プロセッサのいずれかまたは両方を使用)

パッチ 137137-09 – SunOS 5.10: カーネルパッチ

## Solaris 10 8/07 (SPARC64 VII 2.53 GHz プロセッサを使用) のパッチ

- Solaris 10 10/09 パッチバンドルおよび Sun Alert パッチクラスタ。次のウェブサイトを参照してください。

<http://sunsolve.sun.com/show.do?target=patches/patch-access>

- また、SPARC64 VII プロセッサが含まれるドメインには Solaris 10 8/07 OS を新規インストールできません。この問題には、次の2つの回避方法があります。
  - パッチがすべて適用されたイメージを作成し、Jumpstart を使用する。
  - OS のインストールを SPARC64 VI プロセッサのみが含まれたドメインで開始し、必要なパッチを追加した後、ドメインに SPARC64 VII プロセッサを追加する。

## Solaris 10 8/07 (SPARC64 VII 2.4 GHz プロセッサを使用)

次のパッチは、SPARC64 VII 2.4 GHz プロセッサを搭載した本体装置上の Solaris 10 8/07 OS に対してのみ必要です。次に示す順序でインストールします。

1. 119254-51 - SunOS 5.10: インストールおよびパッチユーティリティーパッチ
2. 125891-01 - SunOS 5.10: lib\_cpsr\_hwcap.so.1 パッチ
3. 127755-01 - SunOS 5.10: Fault Manager パッチ
4. 127127-11 - SunOS 5.10: カーネルパッチ

Solaris 10 8/07 OS (パッチ 127127-11) は、通常の操作中にパニックまたはトラップすることがあります (CR 6720261)。この問題を回避するには、次のパラメータをシステム仕様ファイル (/etc/system) に設定する必要があります。

```
set heaplp_use_stlb=0
```

その後、ドメインをリブートしてください。

## Solaris 10 8/07 (SPARC64 VI プロセッサを使用)

なし。

# Solaris 10 11/06

Solaris 10 11/06 OS には、次のパッチが必要です。これらの必須パッチを適用しても、Solaris 10 11/06 では SPARC64 VII プロセッサはサポートされません。次に示す順序でパッチをインストールします。

1. 118833-36 – 次に進む前にドメインをリブートしてください。
2. 125100-10 – その他のパッチ要件の一覧については、パッチの README ファイルを参照してください。
3. 123839-07
4. 120068-03
5. 125424-01
6. 118918-24
7. 120222-21
8. 125127-01 – 次に進む前にドメインをリブートしてください。
9. 125670-02
10. 125166-05

---

## Solaris パッチの入手方法

Sun<sup>sm</sup> Connection Update Manager を使用して、必要に応じてパッチを再インストールするか、または最新の必須パッチのセットでシステムをアップデートできます。Sun Connection Update Manager の詳細については、次の URL にある『Sun Update Connection System Administration Guide』を参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/updconn.sys>

または、次のウェブサイトアクセスしてください。

<http://wikis.sun.com/display/SunConnection/Update+Manager>

インストール情報と README ファイルは、パッチのダウンロードに含まれていません。

システムを登録し、Sun Connection Update Manager を使用して最新の Solaris OS パッチを入手するには、次の 2 つの方法があります。

- Update Manager GUI を使用したパッチの入手。

詳細については、前述のリンクで Sun Update Connection のドキュメントを参照してください。

- smpatch(1M) コマンドを使用したパッチの入手。

詳細については、smpatch(1M) のマニュアルページ、またはご使用のバージョンの Solaris OS のリファレンスマニュアル集を参照してください。



---

**注意** - Solaris 10 11/06 OS を実行する SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバの場合、Sun Connection Update Manager を使用する前に、パッチ 123003-03 および 124171-06 をシステムにインストールする必要があります。これらのパッチは、<http://sunsolve.sun.com> からダウンロードできます。

---

---

## Emulex PCI Express (PCIe) カードのパッチ

次に示す Emulex カードは、パッチ 120222-26 で提供されるドライバが必要です。

- Sun StorageTek™ Enterprise Class 4-Gigabit Dual-Port Fiber Channel PCIe HBA (部品番号 SG-XPCIE2FC-EM4)
- Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabit Single-Port Fiber Channel PCIe HBA (部品番号 SG-XPCIE1FC-EM4)

---

## QLogic PCIe カードのパッチ

次に示す QLogic カードは、パッチ 125166-10 で提供されるドライバが必要です。

- Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabit Dual-Port Fiber Channel PCIe HBA (部品番号 SG-XPCIE2FC-QF4)
- Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabit Single-Port Fiber Channel PCIe HBA (部品番号 SG-XPCIE1FC-QF4)

---

## XCP 1090 または XCP 1091 へのアップグレード

XCP 1050 以降を XCP 1090 または XCP 1091 にアップグレードできます。手順については、『Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。

---

**注** - ファームウェアを XCP 1090 または XCP 1091 にアップデートした後、`rebootxscf(8)` コマンドを使用して XSCF をリセットします。

---

## XCP 1050 より前のバージョンからのアップデート

XCP 1050 より前のバージョンを現在実行している場合は、XCP 1090 または XCP 1091 に直接アップデートすることはできません。まず中間バージョンである 1050 ~ 1070 (1070 を含む) の XCP にアップデートします。手順については、対象とする中間バージョンのプロダクトノートを参照してください。

---

**注** - `admin` という名前のアカウントがある場合は、XCP 1050 以降にアップデートする前に、`deleteuser(8)` コマンドを使用してそれらのアカウントを削除します。`admin` アカウント名は、XCP 1050 以降で予約されています。

---

## 特定タイプの XCP アップグレード実施後に必要となるドメイン再起動

XCP バージョン 1050 ~ 1070 (1050 と 1070 を含む) から XCP 1090 または XCP 1091 へのアップデートの間に動作中であったドメインでは、Dynamic Reconfiguration (DR) を実行して SPARC64 VII プロセッサを追加または交換する場合、OpenBoot PROM ファームウェアをアップデートする必要があります。OpenBoot PROM ファームウェアは、XCP をアップデートし、ドメインを再起動するとアップデートされます。このため、SPARC64 VII プロセッサを追加したか交換したかにかかわらず、ファームウェアを最新の XCP リリースにアップデートした後は、すべてのドメインを再起動します。

---

## 機能の問題と制限事項

この項では、本リリースにおける既知の問題について説明します。

### SPARC64 VII プロセッサに関する制限事項



---

**注意** - SPARC 64 VII プロセッサをシャーシに搭載する前に、XCP ファームウェアおよび Solaris OS のアップグレードを完了しておく必要があります。

---

### 一般的な機能の問題と制限事項



---

**注意** - Dynamic Reconfiguration (DR) とホットプラグの問題については、「[Solaris OS に関する問題と回避方法](#)」(P.21) を参照してください。

---

- 消費電力および排気量を表示する次の機能は、M4000/M5000 サーバではサポートされていません。
  - `showenvironment(8)` コマンドの `power` オペランドおよび `air` オペランド
  - XSCF Web

---

**注** - このようなコマンドまたはメニューを実行すると、無効な値が表示されます。SNMP エージェント機能でも、消費電力と排気量の無効な値が取得されます。

---

- 次の語はシステムに予約されているため、ユーザーアカウント名に使用することはできません。adm、admin、apache、bin、daemon、default、ldap、nobody、ntp、operator、proxyuser、root、rpc、rpcuser、および sshd。
- Service Processor (SP) を Network Time Protocol (NTP) サーバとして使用しないでください。独立した NTP サーバを使用することによって、SP とドメインで時刻の一貫性を保つ上で最適な信頼性を得られます。NTP の詳細については、Sun BluePrints™ のドキュメント『Using NTP to Control and Synchronize System Clocks』(<http://www.sun.com/blueprints/0701/NTP.pdf>) を参照してください。
- 外部電源制御装置の外部電源制御インターフェースを使用するとき、次の通知信号はサポートされていません。
  - OS パニックまたは本体装置ハードウェア異常信号 (\*CPUN/RTNU)

- 本体装置ハードウェア異常信号（電源異常、温度異常、ファン異常）（\*ALARM）
- XSCF を使用し、XCP をインポートまたはファームウェアをアップデートする場合、ウェブブラウザ上に **Web session ID error** が表示されることがあります。また、**Autologout** 設定でタイムアウト時間を 30 分以上で指定すると、**Internal Server Error** が表示されることがあります。現在のブラウザを閉じてから、新しいブラウザを開いて、XSCF Web に接続し直してください。
- この XCP リリースの場合、XSCF ブラウザユーザーインターフェース (XSCF Web) は、PCI ボックス管理機能をサポートしていません。
- SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバでのテープドライブユニットオプションについては、当社営業担当員にお問い合わせください。
- XSCF Web を使用するときは、ポップアップブロック設定を無効にし、ブラウザに検索ツールなどのプラグインが組み込まれている場合はプラグインを削除してください。
- XSCF-LAN はオートネゴシエーションに対応しています。XSCF-LAN と接続するネットワーク機器は、オートネゴシエーションモードに設定してください。この設定を行わず、XSCF-LAN と全二重固定で設定されているネットワーク機器を接続した場合、IEEE802.3 の規約によって、XSCF-LAN は半二重モードで通信します。これにより、ネットワークの通信速度が遅くなったり、通信異常が発生したりする場合があります。
- DR と ZFS ファイルシステムの相互運用性の問題のため、M4000/M5000 サーバは UFS ファイルシステムを使用してプレインストールされ出荷されます。表 3-2 の CR 6522017 を参照してください。
- M4000/M5000 サーバは、停止交換で使用します。CPU モジュール (CPUM)、メモリボード (MEMB)、I/O ユニット (IOU)、または XSCF ユニットのホットスワップはサポートされていません。
- ドメインでサポートされるカードの数など、I/O オプションおよびストレージについては、次の Sun Cross Platform IO Support ページを参照してください。  
<http://wikis.sun.com/display/PlatformIoSupport/Home/>
- PCI ボックスを使用してホストサーバを外部ブートディスクドライブに接続することは、サポートされていません。
- `setsnmp(8)` コマンドおよび `showsnmp(8)` コマンドが、許可の失敗をユーザーに通知しないことがあります。このような障害が発生した場合、SNMP トラップホストが動作していることを確認し、正しいユーザー名を使用してコマンドを再実行してください。

---

## 追加情報および手順

ここでは、本リリース時点でわかっている追加の問題および制限事項について説明します。

### システムへのログイン

標準的なデフォルトのログインのほかに、本体装置では、`admin` と呼ばれる一時的なログインが可能な状態で出荷されます。これにより、シリアルポートを介したリモート初期ログインが可能になります。`admin` ユーザー権限は `useradm` 限定であり、変更はできません。標準の UNIX ユーザー名 / パスワード認証または SSH 公開鍵認証を使用して一時 `admin` としてログインすることはできません。一時 `admin` アカウントにパスワードはなく、またパスワードをこのアカウント用に追加することもできません。

デフォルトのユーザーとしてログインした後や、一時 `admin` としてのログインにより有効なパスワードと権限を与えられた最初のユーザーが登録された後には、一時 `admin` アカウントは無効となります。

デフォルトのログインが使用される前に一時 `admin` としてログインできない場合には、`showuser -l` コマンドを実行することにより、他の誰かが上記の操作を実行していないか確認してください。

### WAN ブートサーバからのブート

WAN ブートインストール方法を使用すると、HTTP を使用してワイドエリアネットワーク (WAN) 経由でソフトウェアのブートとインストールを行うことができます。WAN ブートサーバから M4000/M5000 サーバをブートできるようにするには、適切な実行可能ファイル `wanboot` をインストールし、**OpenBoot™** バージョン 4.24 以降を使用して、必要なハードウェアがサポートされるようにする必要があります。

WAN ブートサーバの詳細については、使用している Solaris 10 OS のバージョンに対応する『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』を参照してください。Solaris 10 OS のドキュメントは次のウェブサイトにあります。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/solaris.10>

実行可能ファイル `wanboot` をアップグレードしないと、本体装置でパニックが発生し、次のようなメッセージが表示されます。

```
krtld: load_exec: fail to expand cpu/$CPU
krtld: error during initial load/link phase
panic - boot: exitto64 returned from client program
```

## Sun Java Enterprise System

Sun Java™ Enterprise System は、ソフトウェア投資を最大限に活用するソフトウェアサービスとライフサイクルサービスの包括的なセットです。概要およびドキュメントについては、次のウェブサイトアクセスしてください。

<http://www.sun.com/service/javaes/index.xml>

---

**注** - Java Enterprise System 5 Update 1 をシステムにインストールすることによって発生する問題 (CR 6644798) に対処するために、Web Console SMF サービスを有効にする必要が生じる場合があります。

---

### ▼ Web Console SMF サービスの有効化

- 端末に root としてログインし、サービスを有効にします。

```
# svcadm enable svc:/system/webconsole:console
```

ソフトウェアの再読み込みが必要になった場合のダウンロードおよびインストール方法については、次のウェブサイトアクセスしてください。

<http://www.sun.com/software/preinstall>

ソフトウェアの最新コピーをダウンロードした場合は、使用している本体装置に必要なパッチがそのソフトウェアに含まれていないことがあります。ソフトウェアのインストール後、システムに必須パッチが存在するかどうかを確認する手順については、「Solaris パッチ条件」(P.5) を参照してください。

## 第 2 章

---

# ハードウェアに関する情報

---

ここでは、SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのハードウェアに関する特記事項や問題点について説明します。

- 「ハードウェアに関する問題と回避方法」 (P.15)
- 「ハードウェアドキュメントの変更予定」 (P.17)

---

## ハードウェアに関する問題と回避方法

### 1 つの J4200 JBOD ストレージアレイからの複数のシステムのブート

Sun Storage J4200 SAS JBOD アレイには、6 つの汎用 SAS コネクタが装備されています。FW バージョン 3A32 以降では、それらの各コネクタを別個の SAS イニシエーターに接続できるため、最大 6 つのシステムをアレイに接続できます。各システムは、アレイ上の個別のディスクをそのブートデバイスとして使用できます。J4200 アレイには 12 個のディスクがあります。したがって、信頼性を高めるために各ブートデバイスをミラーリングできます。J4200 アレイは、より安全な環境を提供するために、複数のゾーンに構成できます。

詳細については、次のウェブサイトにある Sun StorageTek Common Array Manager のソフトウェアドキュメントを参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/stor.armgr#hic>

特に、次のドキュメントを参照してください。

- 『Sun StorageTek Common Array Manager ソフトウェアリリースノート 6.4.1』

- 『Sun StorageTek Common Array Manager ユーザーズガイドオープンシステム用』

## Sun Crypto Accelerator 6000 カード

Sun Crypto Accelerator (SCA) 6000 カードドライバの適切なバージョンを使用していない場合、SCA 6000 カードでホットプラグ操作を行うと、M4000/M5000 サーバでパニックまたはハングが発生するおそれがあります。SCA6000 ドライバおよびファームウェアのバージョン 1.1 の場合、必要なブートストラップファームウェアのアップグレードを行うと、ホットプラグ操作が可能になります。SCA6000 ドライバのバージョン 1.0 は、ホットプラグをサポートしていません。ホットプラグは使用しないでください。

Sun Crypto Accelerator (SCA) 6000 カードは、スロット 1 にはホットプラグしないでください。

## U320 PCIe SCSI カード

U320 PCIe SCSI カード (部品番号 375-3357-01/02) は、SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバの PCI カセットではサポートされていません。部品番号 375-3357-03 以降を使用する必要があります。

# ハードウェアドキュメントの変更予定

この項では、ドキュメントの出版後に判明したハードウェアに関する重要な最新情報および変更予定を示します。

表 2-1 ハードウェアドキュメントの変更予定

タイトル	ページ / 項番号	変更内容
『SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバインストールレーションガイド』	2.2.2 項	表 2.3 「電源プラグとコンセント形状」以下の注釈を追加します。 注 - B 型プラグを持つ本体装置では、本体装置外に 20A の過電流保護装置があることを確認してください。この装置がない場合は、ノーヒューズブレーカー (NFB) やヒューズなどを使用して、20A の過電流保護を行ってください。B 型プラグとは、平行 2 極接地極付プラグ以外の NEMA L6-30、L6-20、L6-15、L5-15などを指します。
	3.3.2 項	「XSCF ユニットの初期化」を変更します。「 <a href="#">XSCF ユニットの初期化</a> 」(P.17)を参照してください。

## XSCF ユニットの初期化

『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバインストールレーションガイド』の 3.3.2 項にある XSCF ユニットの初期化手順を次の情報で更新します。

XSCF のすべての機能を使用するには、さまざまな設定値を設定する必要があります。

### 1. 必須の設定値を設定します。

これらの設定値を設定する方法の詳細については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド』の「XSCF セットアップ」の項を参照してください。

次の設定が必須です。

- XSCF のユーザーアカウント、パスワード、およびユーザー権限の登録 (adduser、password、setprivileges)
- 保守作業員 (FE) のユーザーアカウント (保守用)
- 日付と時刻の設定 (setdate、settimezone)
- XSCF ホスト公開鍵の確認 (showssh)
- SSH/telnet の設定 (setssh、settelnet)

- ネットワークインターフェース、ルーティング、および DNS 関連の設定 (setnetwork、setroute、setnameserver など)

---

**注** - applynetwork コマンドおよび rebootxscf コマンドで XSCF ユニットをリセットしてください。

---

- ドメイン / サービスプロセッサ間通信プロトコル (DSCP) の設定 (setdscp)
- 海拔の設定 (setaltitude)

---

**注** - 海拔の設定を適用するには、setaltitude に続けて rebootxscf を実行する必要があります。

---

- 二系統受電オプションの設定 (setdualpowerfeed)

---

**注** - setdualpowerfeed による変更内容を適用するには、シャーシの完全な電源再投入 (パワーサイクル、すべての電源コードを取り外す) が必要です。必ず 30 秒待ってから、シャーシに電源コードを再接続してください。

---

XSCF の初期設定を行うには、XSCF のデフォルトユーザーアカウントを使用します。ユーザー環境のユーザーアカウントを登録するまで、デフォルトユーザーアカウントとデフォルトユーザーパスワードでログインします。デフォルトユーザーの権限は、useradm および platadm です。

2. ステップ 1 で設定したユーザーアカウントとパスワードを使用して、XSCF シェルにログインします。

ユーザーアカウントにログインする方法の詳細については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。

## 第 3 章

# ソフトウェアに関する情報

ここでは、特定のソフトウェアとファームウェアの問題とその回避方法について説明します。ここでは、次の内容について説明します。

- 「XCP に関する問題と回避方法」 (P.19)
- 「Solaris OS に関する問題と回避方法」 (P.21)
- 「ドキュメントの変更予定」 (P.34)

パッチを入手する方法、およびこれらの問題を修正するパッチが入手可能かどうかを確認する方法については、次のウェブサイトアクセスしてください。

<http://sunsolve.sun.com>

## XCP に関する問題と回避方法

表 3-1 に、XCP の問題と実行可能な回避方法を示します。

表 3-1 XCP の問題と回避方法

ID	説明	回避方法
6760740 および 6894410	<p>次のいずれかの状態が発生すると、XSCF が停止してリポートが必要になるか、コンソールエラーメッセージおよびコアダンプ (ereport.chassis.software.core) が出力されることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• ユーザー ID を 65536 より大きい値に明示的に割り当ててローカルアカウントが作成された (adduser -u uid)。</li><li>• 65536 より大きい UID 値を持つ LDAP アカウントが使用された。</li></ul>	<p>100 ~ 60000 のユーザー ID (UID) 値を持つユーザーアカウントだけを使用してください。これは、XSCF コマンド adduser の自動割り当て UID の範囲です。</p>

表 3-1 XCP の問題と回避方法 (続き)

ID	説明	回避方法
6765468	タイムゾーンの値が3文字ではない場合、エラーログを XSCF Web の [Error Log] ページに表示できません。また、XSCF Web の [Panic Log] ページおよび [IPL Message Log] ページで、表の日付が「---」と表示されます。	XSCF シェルで <code>showlogs(8)</code> コマンドを使用してください。
6789066	<code>settimezone -c adddst</code> コマンドで、タイムゾーンの短縮形およびサマータイムの名前に8文字以上を設定した場合、 <code>showlogs</code> コマンドを実行すると、セグメンテーションの障害が発生し、エラーになります。	タイムゾーンの短縮形およびサマータイムの名前は、7文字以下で指定してください。
6851009	スタンドアロン NTP サーバで特定の変更が行われると、NTP サーバへの XSCF 接続が失われ、XSCF はローカルクロックを使用するようになります。この問題は、スタンドアロン NTP サーバ、つまり時刻を独自のローカルクロック (LCL) と同期させる NTP サーバで発生し、それより <code>stratum</code> が高い NTP サーバでは発生しません。このようなことを引き起こす変更には、次のようなものがあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• NTP サーバのリポート</li> <li>• 日時の変更 (1秒でも)</li> <li>• NTP サーバの <code>stratum</code> の変更</li> </ul>	<p>XSCF LCL および NTP サーバが、両方とも 127.127.1.0 に設定されていないかどうかを確認してください。このように設定されている場合は、いずれか一方を変更します。</p> <p><b>注</b> - 変更を行う前に、その変更が他の NTP クライアントに影響を及ぼさないことを確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• NTP サーバ上で値を変更するには、NTP ホスト設定ファイル (<code>/etc/inet/ntp.conf</code>) を別の値に変更した後、XSCF をリポートして変更内容を適用します。別の値の例としては、127.127.1.1、127.127.1.2、127.127.1.3 などがあります。</li> <li>• XSCF 側で値を変更するには、<code>setntp</code> コマンドを使用します。たとえば、次のように入力します。  <code>setntp -m localaddr=2</code>            値が 127.127.1.2 に設定されます。</li> </ul>
6870490	M4000/M5000 サーバおよび M8000/M9000 サーバ上で、XSCF が停止している間にファンのアラーム条件を変更した場合、XSCF のブート時に無視されます。	<code>replacefru(8)</code> コマンドを実行して、正常に動作しているファンを見かけ上交換した後、 <code>showenvironment fan</code> を使用してファンの速度を確認します。 <code>showenvironment(8)</code> のマニュアルページを参照してください。
6893578	Active Directory または LDAP over SSL を通じて認証されたユーザーは、 <code>console(8)</code> コマンドを実行してドメインコンソールを取得できません。 <code>showconsolepath(8)</code> コマンドを実行すると、このようなコンソールユーザーは、実際のユーザー名ではなく <code>proxyuser</code> として表示されます。	回避方法はありません。

# Solaris OS に関する問題と回避方法

この項では、Solaris OS に関する問題について説明します。次の表に、使用している Solaris OS リリースに応じて発生しうる問題を示します。

## サポートされているすべてのリリースの Solaris OS に関する問題

すべてのリリースの Solaris OS で発生しうる問題を、表 3-2 に示します。ドメインが最新の Solaris リリースを実行していない場合は、使用中のリリースよりも新しいリリースで修正されている CR（以降の各表を参照）にも留意してください。

表 3-2 サポートされているすべてのリリースの Solaris OS に関する問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
4816837	中断状態で SP DR のパラレルホットプラグ操作を実行したときに、システムがハングします。	回避方法はありません。
6459540	DAT72 内蔵テープドライブユニットがテープの処理中にタイムアウトすることがあります。またデバイスは、システムに QIC ドライブとして識別されることもあります。	以下の定義を、/kernel/drv/st.conf に追加してください。  tape-config-list= "SEAGATE DAT DAT72-000", "SEAGATE_DAT____DAT72-000", "SEAGATE_DAT____DAT72-000"; SEAGATE_DAT____DAT72-000= 1,0x34,0,0x9639,4,0x00,0x8c,0x8c, 0x8c,3;  SEAGATE DAT と DAT72-000 の間には半角スペースが 4 つ必要です。
6522017	ZFS ファイルシステムを使用しているドメインは、DR を使用できません。	ZFS ARC の最大サイズを小さくしてください。詳細については、当社技術員にお問い合わせください。
6531036	boot net によるインストール後に、エラーメッセージ network initialization failed が繰り返し表示されます。	回避方法はありません。

表 3-2 サポートされているすべてのリリースの Solaris OS に関する問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6532215	ドメインのブート時に volfs や dscp サービスの起動が失敗することがあります。	<p>サービスを再起動してください。この問題を事前に回避する場合は、以下のコマンドを実行してください。</p> <pre># svccfg -s dscp setprop start/timeout_seconds=count: 300 # svccfg -s volfs setprop start/timeout_seconds=count: 300 # svcadm refresh dscp # svcadm refresh volfs</pre>
6674266	<p>DR deleteboard(8) および moveboard(8) 操作が失敗することがあります。</p> <p>ドメインに表示されるメッセージの例を次に示します。</p> <pre>drmach: WARNING: Device driver failure: /pci dcs: &lt;xxxx&gt; config_change_state: Hardware specific failure: unconfigure SB1: Device driver failure: /pci</pre>	DR 操作を再実行してください。
6592302	DR 操作が失敗すると、メモリが一部未設定のままになります。	addboard -d コマンドを使用してボードをドメインに戻すことによって、復旧できる場合があります。復旧できない場合は、deleteboard(8) を再実行してください。

表 3-2 サポートされているすべてのリリースの Solaris OS に関する問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6660168	<p>ドメイン上で <code>ubc.piowbeue-cpu</code> エラーが発生すると、Solaris Fault Management <code>cpumem-diagnosis</code> モジュールが失敗し、FMA サービスが停止することがあります。</p> <p>これが発生すると、コンソールログに以下の例のように出力されます。</p> <pre>SUNW-MSG-ID: FMD-8000-2K, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Fri Apr 4 21:41:57 PDT 2008 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: 2020642002, HOSTNAME: &lt;hostname&gt; SOURCE: fmd-self-diagnosis, REV: 1.0 EVENT-ID: 6b2e15d7-aa65-6bcc-bcb1- cb03a7dd77e3 DESC: A Solaris Fault Manager component has experienced an error that required the module to be disabled. Refer to http://sun.com/msg/FMD- 8000-2K for more information. AUTO-RESPONSE: The module has been disabled. Events destined for the module will be saved for manual diagnosis. IMPACT: Automated diagnosis and response for subsequent events associated with this module will not occur. REC-ACTION: Use fmdump -v -u &lt;EVENT-ID&gt; to locate the module. Use fmadm reset &lt;module&gt; to reset the module.</pre>	<p>fmd サービスが停止した場合は、復旧させるために、ドメイン上で以下のコマンドを実行してください。</p> <pre># svcadm clear fmd</pre> <p>その後、<code>cpumem-diagnosis</code> を再起動します。</p> <pre># fmadm restart cpumem-diagnosis</pre>
6668237	<p>DIMM を交換しても、該当する DIMM の故障がドメインから消去されません。</p>	<p><code>fmadm repair <i>fmri</i> <i>uuid</i></code> を使用して修復を記録してください。その後、<code>fmadm rotate</code> コマンドを使用して残りのイベントを消去します。</p>
6745410	<p>システムをブートしないようにする <code>Kadb</code> オプションが、ブートプログラムで無視されます。</p>	<p><code>kadb</code> の代わりに <code>kmdb</code> を使用してください。</p>

表 3-2 サポートされているすべてのリリースの Solaris OS に関する問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6872501	XSCF によって要求された場合、コアがオフラインになりません。	サービスプロセッサ上で、 <code>-v</code> オプションを指定して <code>fmdump(1M)</code> を使用し、障害のあるコアを識別します。識別した後、ドメインで <code>psradm(8)</code> を使用してコアをオフラインにします。
6888928	IPMP インターフェースで、プローブパケットがそのインターフェースを通じて送信されていない場合に問題が発生します。問題が発生するのは、M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバで Solaris 10 10/09 OS および IPMP を実行している場合、またはパッチ 141444-09 がインストールされたいずれかの Solaris リリースで IPMP を実行している場合です。	プローブベースの障害検出を無効にします。InfoDoc 211105 (86869) を参照してください。

## Solaris 10 10/09 で修正された Solaris の問題

表 3-3 に、Solaris 10 10/09 OS で修正された問題を示します。これより前のリリースでは、これらの問題が発生する可能性があります。

表 3-3 Solaris 10 10/09 で修正された Solaris OS の問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6572827	<code>prtdiag -v</code> コマンドで PCI バスのタイプが間違っていて出力されます。PCI-X リーフデバイスが「PCI」、レガシー PCI デバイスが「UNKN」と表示されます。	回避方法はありません。
6800734	ドメインで <code>deleteboard</code> がハングします。	回避方法はありません。
6816913	XSCF の <code>showdevices</code> コマンドで、端数のプロセッサキャッシュサイズに対して間違っただプロセッサキャッシュサイズが表示されます。たとえば、正しい表示が「5.5MB」である場合に、「5MB」と表示されます。	ドメインで <code>prtdiag(1M)</code> コマンドを使用して、プロセッサ情報を出力してください。
6821108	DR および <code>showdevices</code> が、XSCF のリポート後に動作しません。	XSCF サービスプロセッサを 2 回リブートします。最初のリポートで SA の半数が削除され、2 回目で残りの半数が削除されます。2 回目の追加は成功して、IPSec 通信が再確立されます。
6827340	SCF コマンドのエラーによって、DR およびメモリ巡回に失敗することがあります。	回避方法はありません。

## Solaris 10 5/09 で修正された Solaris の問題

表 3-4 に、Solaris 10 5/09 OS で修正された問題を示します。これより前のリリースでは、これらの問題が発生する可能性があります。

表 3-4 Solaris 10 5/09 で修正された Solaris OS の問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6588555	カーネルメモリで DR 操作中に XSCF をリセットすると、ドメインがパニックすることがあります。	DR 操作の進行中は、XSCF リセットを起動しないでください。DR 操作が完了するのを待ってから、リセットを開始します。
6623226	Solaris コマンドの lockstat(1M) や dtrace lockstat プロバイダで、システムパニックが発生することがあります。	Solaris の lockstat(1M) コマンドおよび dtrace lockstat プロバイダを使用しないでください。
6680733	負荷が高い状況で、Sun Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP (QGC) および Sun Dual 10 GigE Fiber XFP Low Profile Adapter (XGF) NIC がパニックすることがあります。	可能な場合は、カードを x8 スロットで使用します。このように構成できない場合、回避方法はありません。
6689757	単一の XFP 光トランシーバまたは正しく取り付けられていない XFP 光トランシーバで Sun Dual 10 GigE Fiber XFP Low Profile Adapter (XGF) を使用すると、次のエラーがコンソールに表示されることがあります。 The XFP optical transceiver is broken or missing.	両方の XFP 光トランシーバが筐体にしっかりと装着されていることを確認してください。 INTEL と Sun の XFP 光トランシーバを同じアダプターに混在させないでください。 ポートに XFP 光トランシーバが含まれていない場合、またはポートに XFP 光トランシーバが含まれていても未使用の場合は、ifconfig コマンドでポートを精査しないでください。

## Solaris 10 10/08 で修正された Solaris の問題

表 3-5 に、Solaris 10 10/08 OS で修正された問題を示します。これより前のリリースでは、これらの問題が発生する可能性があります。

表 3-5 Solaris 10 10/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6511374	エラーが多すぎてメモリバンクが無効になった場合は、ブート中にメモリ変換の警告メッセージが表示されることがあります。	システムのリブート後に、fmadm repair コマンドを使用して、次回ブート時に問題が再現しないようにできます。

表 3-5 Solaris 10 10/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6533686	<p>XSCF でシステムリソースが不足している場合、カーネルメモリを移動する DR deleteboard または moveboard 操作が、次に示す 1 つ以上のエラーで失敗することがあります。</p> <p>SCF busy DR parallel copy timeout</p> <p>この問題が発生するのは、マルチドメインのホストである Quad-XSB 構成のシステムボードだけです。</p>	<p>後で、DR 操作を再実行してください。</p>
6556742	<p>DR 時に DiskSuite が metadb を読めない場合、システムがパニックします。このバグの影響を受けるカードは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• SG-XPCIE2FC-QF4, 4-Gigabyte PCI-e Dual-Port Fiber Channel HBA</li> <li>• SG-XPCIE1FC-QF4, 4-Gigabyte PCI-e Single-Port Fiber Channel HBA</li> <li>• SG-XPCI2FC-QF4, 4-Gigabyte PCI-X Dual-Port Fiber Channel HBA</li> <li>• SG-XPCI1FC-QF4, 4-Gigabyte PCI-X Single-Port Fiber Channel HBA</li> </ul>	<p>metadb の複製コピーに別のホストバスアダプターを介してアクセス可能であれば、パニックは回避できます。</p>
6589833	<p>SAP プロセスが Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabyte Dual-Port Fiber Channel PCI-E HBA カード (SG-XPCIE2FC-QF4) に接続された記憶装置にアクセスしようとしているときにこのカードを追加しようとすると、DR addboard コマンドによりシステムがハングするおそれがあります。ネットワークトラフィックが多い状況で以下のカードを使用していると、システムがハングする危険が大きくなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP</li> <li>• X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter</li> </ul>	<p>回避方法はありません。</p>
6608404	<p>X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP カードをホットプラグ操作でスロット 1 に取り付けると、他のネットワークデバイスに障害が発生する場合があります。</p>	<p>この問題を事前に回避するには、このカードをスロット 1 に取り付けないようにしてください。</p>

表 3-5 Solaris 10 10/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6614737	次のいずれかの状況が存在する場合、DR deleteboard(8) および moveboard(8) 操作がハングすることがあります。 DIMM が縮退している。 ドメインに含まれる各システムボードのメモリサイズがそれぞれ異なっている。	次のいずれかの状況が存在する場合、DR 操作を実行しないようにしてください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>縮退メモリ-システムに縮退メモリが含まれているかどうかを確認するには、XSCF コマンド showstatus を使用します。</li> <li>異なるメモリサイズドメインに含まれる各システムボードのメモリサイズがそれぞれ異なっているかどうかを確認するには、XSCF コマンド showdevices またはドメインで prtdiag コマンドを使用してメモリサイズのリストを表示します。</li> </ul> DR コマンドがハングした場合は、復旧させるためにドメインをリブートしてください。
6632549	ドメインでの fmd service が、DR 操作後に保守モードに入れないことがあります。	ドメインで次のコマンドを実行します。 # svcadm clear fmd
6660197	次のいずれかの状況が存在する場合、DR によってドメインがハングすることがあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ドメインに 256 以上の CPU が含まれている。</li> <li>メモリエラーが発生し、DIMM が縮退している。</li> </ul>	1. 次のパラメータをシステム仕様ファイル (/etc/system) に設定する必要があります。 set drmach:drmach_disable_mcopy = 1 2. ドメインをリブートしてください。
6679370	システムのブート中、ホットプラグを使用した PCI ボックスの追加中、または DR による FMEMA の操作中に、次のメッセージがコンソールに出力されることがあります。  SUNW-MSG-ID: SUN4-8000-75, TYPE: Fault, VER: 1, SEVERITY: Critical ... DESC: A problem was detected in the PCIExpress subsystem. Refer to <a href="http://sun.com/msg/SUN4-8000-75">http://sun.com/msg/SUN4-8000-75</a> for more information. ...	/etc/system に次の行を追加し、ドメインをリブートしてください。 set pcie_expected_ce_mask = 0x2001
6720261	ドメインで Solaris 10 5/08 OS が稼働している場合、通常の操作中に、システムがパニックまたはトラップすることがあります。	次のパラメータをシステム仕様ファイル (/etc/system) に設定する必要があります。 set heaplp_use_stlb=0 その後、ドメインをリブートしてください。

## Solaris 10 5/08 で修正された Solaris の問題

表 3-6 に、Solaris 10 5/08 OS で修正された問題を示します。これより前のリリースでは、これらの問題が発生する可能性があります。

表 3-6 Solaris 10 5/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6348554	以下のカードで <code>cfgadm -c disconnect</code> コマンドを使用すると、コマンドがハングアップするおそれがあります。 <ul style="list-style-type: none"><li>• SG-XPCIE2FC-QF4 – Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabyte Dual-Port Fiber Channel PCI-E HBA</li><li>• SG-XPCIE1FC-QF4 – Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabyte Single-Port Fiber Channel PCI-E HBA</li><li>• SG-XPCI2FC-QF4 – Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabyte Dual-Port Fiber Channel PCI-X HBA</li><li>• SG-XPCI1FC-QF4 – Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabyte Single-Port Fiber Channel PCI-X HBA</li></ul>	影響を受けるカードでは、 <code>cfgadm -c disconnect</code> 操作を実行しないでください。
6472153	M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ以外の sun4u サーバ上に Solaris フラッシュアーカイブを作成し、それをこれらのサーバのいずれかにインストールすると、コンソールの TTY フラグが正しく設定されません。このため、負荷がかかっているときにコンソールに文字が表示されなくなる場合があります。	Solaris フラッシュアーカイブから Solaris OS をインストールした直後に M4000/M5000/M8000/M9000 サーバに <code>telnet</code> で入り、コンソールの TTY フラグを以下のようにリセットします。 <pre># sttydefs -r console # sttydefs -a console -i "9600 hupcl opost \ onlcr crtscts" -f "9600"</pre> この作業は 1 回だけ実行してください。
6522433	リブート後の CPU 障害によって、 <code>fmdump</code> が正しいマザーボードを識別できないことがあります。	XSCF のシステムステータスを確認してください。
6527811	XSCF 上で <code>showhardconf(8)</code> コマンドを使用すると、PCI ホットプラグを使用して PCI ボックスが設定されていても、PCI ボックスにインストールされている PCI カード情報を表示することができません。	回避方法はありません。PCI ボックス内の各 PCI カードが PCI ホットプラグを使用して設定されていれば、PCI カード情報は正しく表示されます。

表 3-6 Solaris 10 5/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6536564	showlogs(8) および showstatus(8) コマンドが、別の I/O コンポーネントを報告することがあります。	この問題を事前に回避するには、ドメインで以下のコマンドを実行してください。 <pre># cd /usr/platform/SUNW,SPARCEnterprise/ lib/fm/topo/plugins # mv ioboard.so ioboard.so.orig # svcadm restart fmd</pre> <p>次のメッセージが表示された場合は、当社技術員までご連絡ください。  SUNW-MSG-ID:SUNOS-8000-1L, TYPE: Defect, VER:1, SEVERITY:Minor  EVENT-TIME:Sun May 6 18:22:24 PDT 2007  PLATFORM:SUNW,SPARC-Enterprise,  CSN:BE80601007, HOSTNAME:sparc</p>
6545143	ユーザースタックアドレスの TLB ミスのトラップ処理中にシステムパニックがまれに発生することがあります。この問題は、フラッシュウインドウトラップ (ta 3) を実行するユーザープロセスと同時に、ユーザースタックの対応付けが解除される場合に発生する可能性があります。パニックメッセージには、次の文字列が含まれています。 bad kernel MMU trap at TL 2	回避方法はありません。
6545685	電源投入自己テスト (POST) で修正可能なメモリエラー (CE) が検出された場合、ドメインは誤って 4DIMM または 8DIMM に縮退することがあります。	/etc/system で次のように設定し、使用されるメモリ巡回タイムアウト値を増やしてから、システムをリブートします。 <pre>set mc-opl:mc_max_rewrite_loop = 20000</pre>
6546188	以下のカード上でホットプラグ (cfgadm) および DR 操作 (addboard および deleteboard) を実行すると、システムがパニックします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP</li> <li>• X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter</li> </ul>	回避方法はありません。

表 3-6 Solaris 10 5/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6551356	<p>未設定のカードを設定するためにホットプラグ (cfgadm) を実行すると、システムがパニックします。システムがパニックする直前に、「WARNING: PCI Expansion ROM is not accessible」というメッセージがコンソール上に表示されます。次のカードがこのバグの影響を受けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP</li> <li>• X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter</li> </ul>	<p>cfgadm -c disconnect を使用して、カードを完全に取り外してください。10 秒以上待ってから、cfgadm -c configure コマンドを使用してカードの設定をドメインに戻すことができます。</p>
6559504	<p>以下のカードを使用すると、nxge: NOTICE: nxge_ipp_eccue_valid_check: rd_ptr = nnn wr_ptr = nnn という形式のメッセージがコンソールに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP</li> <li>• X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter</li> </ul>	<p>このメッセージは無視しても差し支えありません。</p>
6563785	<p>以下のカードでホットプラグ操作を行った場合、カードを切断してその直後に再接続すると、ホットプラグ操作が失敗することがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• SG-XPCIE2SCSIU320Z – Sun StorageTek PCI-E Dual-Port Ultra320 SCSI HBA</li> <li>• SGXPCI2SCSILM320-Z – Sun StorageTek PCI Dual-Port Ultra 320 SCSI HBA</li> </ul>	<p>カードを切断した後、数秒待ってから再接続してください。</p>
6564934	<p>以下のネットワークカードを使用しているときにカーネルメモリを搭載したボードに対して DR deleteboard 操作を実行すると、接続が切れます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP</li> <li>• X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter</li> </ul>	<p>DR 操作が完了してから、影響を受けたネットワークインターフェースを再設定してください。基本的なネットワーク設定手順については、ifconfig のマニュアルページを参照してください。</p>
6568417	<p>CPU DR deleteboard 操作が正常に終了した後、次のネットワークインターフェースが使用されていると、システムがパニックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP</li> <li>• X1027A-Z1, PCI-e Dual 10-Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter</li> </ul>	<p>/etc/system に次の行を追加し、システムをリポートしてください。</p> <pre>set ip:ip_soft_rings_cnt=0</pre>

表 3-6 Solaris 10 5/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6571370	<p>実験環境でストレス試験を実行した結果、以下のカードでデータ破壊が発生しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP</li> <li>• X1027A-Z1, PCI-e Dual 10-Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter</li> </ul>	<p>/etc/systemに次の行を追加し、システムをリポートしてください。</p> <pre>set nxge:nxge_rx_threshold_hi=0</pre>
6589546	<p>prtdiag は、次のカードのすべての I/O デバイスを表示するわけではありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• SG-XPCIE2FC-EM4 Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabyte Dual-Port Fiber Channel PCI-E HBA</li> <li>• SG-XPCIE1FC-EM4 Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabyte Single-Port Fiber Channel PCI-E HBA</li> </ul>	<p>完全出力には <code>prtdiag -v</code> を使用してください。</p>
6663570	<p>最小番号の CPU に関連する DR 操作によって、ドメインでパニックが発生することがあります。</p>	<p>最小の CPU ID を持つ CPU のホストであるシステムボードを取り外すために、DR を使用しないでください。最小の CPU ID を持つ CPU を特定するには、Solaris の <code>prtdiag</code> コマンドを使用してください。</p>

## Solaris 10 8/07 で修正された Solaris の問題

表 3-7 に、Solaris 10 8/07 OS で修正された問題を示します。これより前のリリースでは、これらの問題が発生する可能性があります。

表 3-7 Solaris 10 8/07 で修正された Solaris OS の問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6416224	<p>単一の NIC カードの接続数が 5,000 を超えると、システムパフォーマンスが低下することがあります。</p>	<p>複数の NIC カードを使用して、ネットワーク接続を分割してください。</p>
6441349	<p>I/O エラーでシステムがハングすることがあります。</p>	<p>回避方法はありません。</p>
6485555	<p>レースコンディションにより、オンボードの Gigabit Ethernet NVRAM に障害が発生します。このレースコンディションが発生する可能性は、非常に低いものです。</p>	<p>回避方法はありません。</p>

表 3-7 Solaris 10 8/07 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6496337	<p>修正不能なエラー (UE) パニックの発生後、「cpumem-diagnosis」モジュールのロードが失敗することがあります。システムは正しく機能しますが、このモジュールを使用する FMA によって通常は自動診断されるイベントが手動診断を要求します。</p> <p>例：            SUNW-MSG-ID: FMD-8000-2K, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor            EVENT-TIME: Thu Feb 15 15:46:57 JST 2007            PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: BE80601007, HOSTNAME: col2-ffem7-d0</p>	<p>問題がすでに発生している場合：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. cpumemdiagnosis ファイルを削除してください。  <pre># rm /var/fm/fmd/ckpt/cpumemdiagnosis/cpumem-diagnosis</pre></li> <li>2. fmd service を再起動してください。  <pre># svcadm restart fmd</pre></li> </ol> <p>この問題を事前に回避するには、「rm -f /var/fm/fmd/ckpt/cpumemdiagnosis/cpumem-diagnosis」を /lib/svc/method/svc-dumpadm ファイルに、次のように追加してください。</p> <pre># savedev=none rm -f /var/fm/fmd/ckpt/cpumemdiagnosis/cpumem-diagnosis #</pre>
6495303	<p>PCIe Dual-Port Ultra320 SCSI コントローラカード (SG- (X) PCIE2SCSIU320Z) を SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバの IOU スロット 1 で使用すると、システムパニックが発生することがあります。</p>	<p>このカードを IOU スロット 1 で使用しないでください。</p>
6498283	<p>ドメインで psradm 操作の実行中に、DR コマンド deleteboard を使用すると、システムパニックが発生することがあります。</p>	<p>回避方法はありません。</p>
6499304	<p>予期しないメッセージがコンソールに表示され、修正可能なエラー (CE) が多数発生しても CPU はオフラインになりません。</p> <p>例：            SUNW-MSG-ID: FMD-8000-11, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor            EVENT-TIME: Fri Feb 2 18:31:07 JST 2007            PLATFORM: SPARC-Enterprise, CSN: BE80601035, HOSTNAME: FF2-35-0</p>	<p>XSCF の CPU ステータスを確認してください。</p>

CR ID	説明	回避方法
6502204	CPU UE パニックの発生後のブート時に、予期しないエラーメッセージがコンソールに表示されることがあります。 例: SUNW-MSG-ID: FMD-8000-11, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Tue Jan 9 20:45:08 JST 2007 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: 2030636002, HOSTNAME: P2-DC1- 16-d0	予期しないメッセージが表示された場合は、 showdomainstatus(8) コマンドを使用して、 XSCF のシステムステータスを確認してくださ い。
6502750	増設または減設されたホットプラグの PCI カードが通知メッセージを出力しないことがあります。	回避方法はありません。
6508432	PCIe の偽の修正可能なエラーが FMA エラーログに多数記録されることがあります。	これらのエラーをマスクするには、次のエン トリを /etc/system に追加し、システムをリ ブートしてください。 set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x2001
6508434	PCI ホットプラグを使用して PCI-X カードを増設または交換すると、ドメインがパニックすることがあります。	PCI ホットプラグを使用して、異なるタイプの PCI-X カードを同じ PCI スロットに増設しない てください。
6510861	PCIe Dual-Port Ultra320 SCSI コントローラ カード (SG- (X) PCIE2SCSIU320Z) を使用し ているとき、PCIe の修正可能なエラーによっ て Solaris のパニックが発生します。	この問題を回避するには、次のエントリを /etc/system に追加してください。 set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x31c1
6520990	ドメインがリポートしたとき、SCF が同じ物理 ボードを共有している他のドメインにサービ スを提供できないことがあります。DR 操作がデ フォルトのタイムアウト時間を超え、パニック が発生する可能性があります。	次の記述を /etc/system に設定して DR タイ ムアウト時間を大きくし、システムをリポート します。 set drmach:fmem_timeout = 30
6530178	DR addboard コマンドがハングすることが あります。問題が検出されると、それ以上の DR 操作はブロックされます。復旧にはドメイ ンのリポートが必要です。	回避方法はありません。
6530288	cfgadm(1M) コマンドが Ap_Id フォーマット を正しく表示しないことがあります。	回避方法はありません。
6534471	通常の操作中に、システムがパニックまたはト ラップすることがあります。	パッチが入手可能でない場合は、カーネルの大 きなページの sTLB プログラミングを無効にし てください。/etc/system ファイルで、 heaplp_use_stlb 変数を 0 に変更してくださ い。 set heaplp_use_stlb=0

表 3-7 Solaris 10 8/07 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6535564	DR によって追加された XSB で、PCI スロット #0、#1、または PCI ボックスに対する PCI ホットプラグが失敗することがあります。	XSB の PCI カードを増設または減設する必要がある場合は、PCI ホットプラグの代わりに DR を使用してください。
6539084	ドメインに Sun Quad GbE UTP x8 PCIe (X4447A-Z) カードが存在する場合、リポート中にドメインのパニックがまれに発生することがあります。	回避方法はありません。
6539909	boot net install コマンドを使用して Solaris OS をインストールしているとき、ネットワークアクセスに次の I/O カードが使用されません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z/X4447A-Z, PCIe Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP</li> <li>• X1027A-Z/X1027A-Z, PCIe Dual 10-Gigabit Ethernet Fiber XFP</li> </ul>	代替タイプのネットワークカードまたはオンボードのネットワークデバイスを使用し、ネットワーク経由で Solaris OS をインストールしてください。
6542632	ドライバ接続に失敗すると、PCIe モジュールにメモリリークが発生します。	回避方法はありません。

## ドキュメントの変更予定

この項では、ドキュメントの出版後に判明した最新情報、またはごく最近に追加された最新情報を示します。

表 3-8 ドキュメントの変更予定

ドキュメント	変更対象	変更内容
『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M800 0/M9000 サーバ XSCF リファレンスマニュアル』および XSCF マニュアルページ	setdualpowerfeed(8) コマンド	XCP 1091 リリースで、DESCRIPTION に次の説明が追加されました。 100V 電源の M4000/M5000 サーバでは、二系統受電モードを使用できません。
	showdevices(8) コマンド	XCP 1091 リリースで、次の情報が追加されました。 DR 操作と後続のドメイン電源再投入 (パワーサイクル) の後、showdevices コマンドを実行する前に devfsadm -v コマンドを実行する必要があります。そうしないと、showdevices によって誤った表示が出力されます。

表 3-8 ドキュメントの変更予定 (続き)

ドキュメント	変更対象	変更内容
	showenvironment(8) コマンド	<p>XCP 1091 リリースで、次の情報が追加されました。  <b>power</b> オペランドは M3000 サーバだけでサポートされており、<b>air</b> オペランドは M3000/M8000/M9000 サーバだけでサポートされています。M4000/M5000 サーバではいずれもサポートされていません。</p>
	setad(8) および setldapssl(8)	<p>setad(8) および setldapssl(8) のマニュアルページにある OPERANDS 項の userdomain の説明に、現時点で次の情報が追加されていません。</p> <p>ユーザードメインは、XSCF 上で setad userdomain コマンドを使用して明示的に設定することも、ログインプロンプトに <i>user@domain</i> 形式で入力することもできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• userdomain をログインプロンプトで次のように指定した場合 -  login: <b>ima.admin@dc01.example.com</b> - このログイン試行で使用されます。事前に設定されたユーザードメイン (showad userdomain で表示されるもの) は無視されます。</li> <li>• userdomain がログインプロンプトで指定されていない場合 (login: <b>ima.admin</b> など) - 事前に設定された各ユーザードメインを XSCF が確認し、ユーザーを認証します。</li> </ul>

表 3-8 ドキュメントの変更予定 (続き)

ドキュメント	変更対象	変更内容
『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド』	Active Directory および LDAP over SSL  XSCF ユニット / ファームウェアのアップデート (8.1.10 項)	<p>「<b>Active Directory および LDAP over SSL</b>」(P.2) で説明したこれらの機能については、現時点で『XSCF ユーザーズガイド』に説明が追加されていません。</p> <p>次の情報は、現時点でドキュメントに追加されていません。次の項の手順 2 および 3 を置き換える必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「XSCF ユニットの交換したときに XSCF ファームウェアをアップデートする (XSCF ユニットが 1 つのシステムの場合または XSCF ユニットが二重化構成のシステムで両方を交換した場合)」</li> <li>「マザーボードユニット (MBU) を交換したとき XCP ファームウェアをアップデートする (M3000 サーバの場合)」</li> </ul> <p>次の手順に置き換えます。</p> <p>2. 交換用のユニットと交換されるユニットのバージョンが異なる場合、メッセージが表示されます。この場合、ファームウェアは自動的にアップデートされません。オペレーターによるファームウェアバージョンの番号合わせが必要です。</p> <p>3. アップデートを行う場合、「外部媒体から XCP をアップデートする」または「ネットワークから XCP をアップデートする」の手順に従います。アップデートが完了した後、バージョン確認を行います。</p>